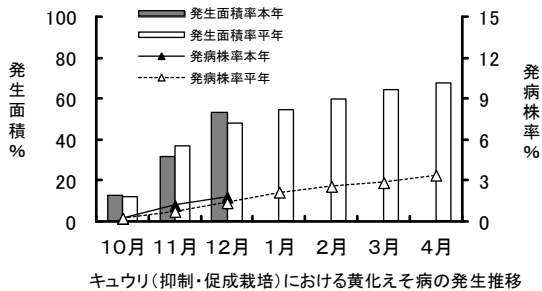


平成26年1月7日

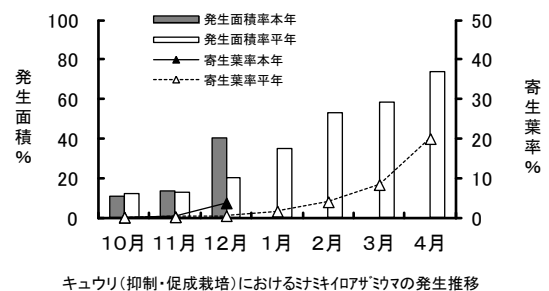
高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月) 野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: 平年並



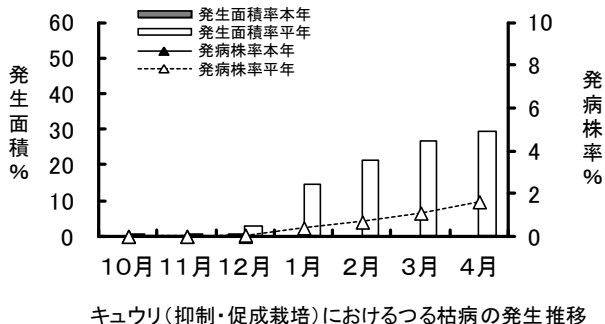
ミナミキイロアザミウマ 発生量: 多



黄化えそ病は平年並みの発生ですが、媒介虫のミナミキイロアザミウマが多発生となっていることから、今後の発生に注意が必要です。ミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

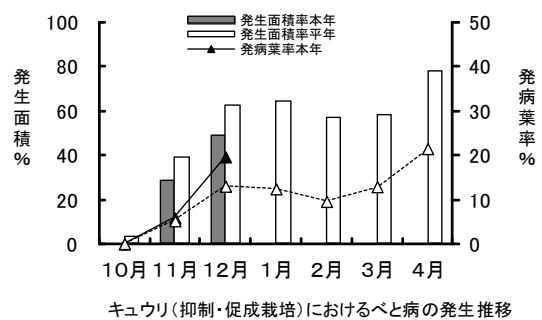
ミナミキイロアザミウマは県中西部で多発生、中央部でやや多発生となっています。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難になることから、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

つる枯病 発生量: 少



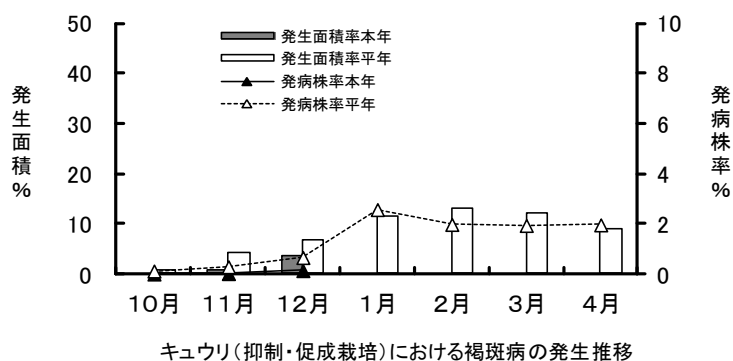
つる枯病は、県全域で少発生となっています。厳寒期はハウス換気が不十分になりやすく、現在の発生状況からやや多発生で推移すると思われますので、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

べと病 発生量: やや少



べと病はやや少発生となっています。本病は、蔓延すると薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 少



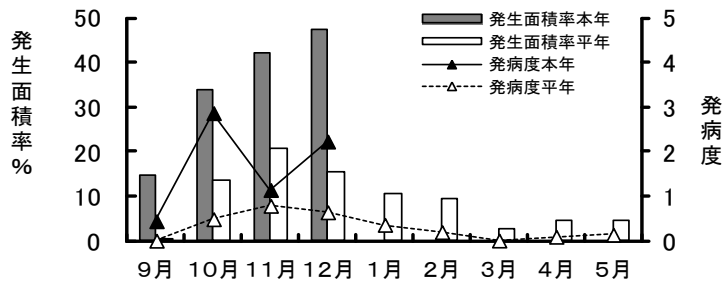
褐斑病は少発生となっていますが、本病は蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見し、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

平成26年1月7日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

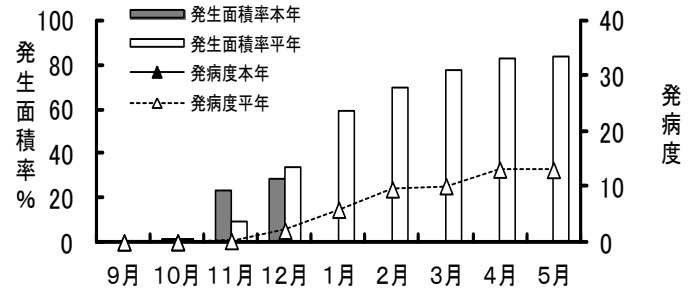
うどんこ病 発生量:多



ナス(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

県東部と西部で多発生となっています。今後の気象が低温気味で、晴天が続くと予想されていることから、病勢の進展に注意し、早期に防除を行ってください。

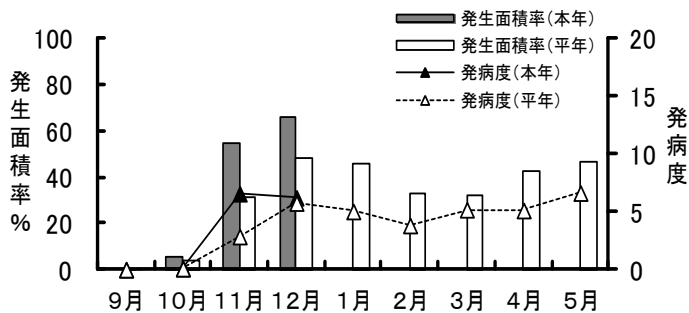
すすかび病 発生量:平年並



ナス(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

県中央部で多発生、西部では平年並です。今後の気象予想から発病を助長する要因は少ないですが、無加温栽培などでは蒸し込みによる換気不足も懸念されますので、病勢の進展には十分ご注意ください。

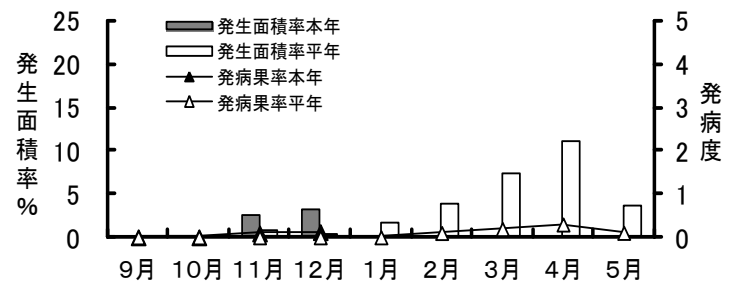
黒枯病 発生量:やや多



ナス(促成栽培)における黒枯病の発生推移

県中央部、西部で発生が多くなっています。気象予報では、気温が低い状態が続く、晴天日が多くなるとの予想です。発生を助長する気象条件ではないと思いますが、すすかび病同様に、今後の病勢の進展に注意してください。

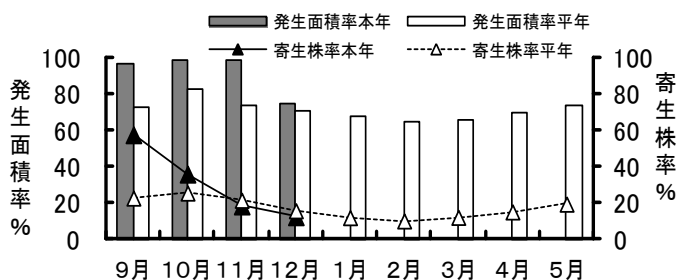
灰色かび病 発生量:多



ナス(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

県東部、中央部で程度は低いものの、多発生となっています。今後は低温傾向で、晴天が多くなるとの予想から、発病を助長する要因は少ないとは思いますが、無加温栽培などで蒸し込み気味の管理にならないように注意しましょう。

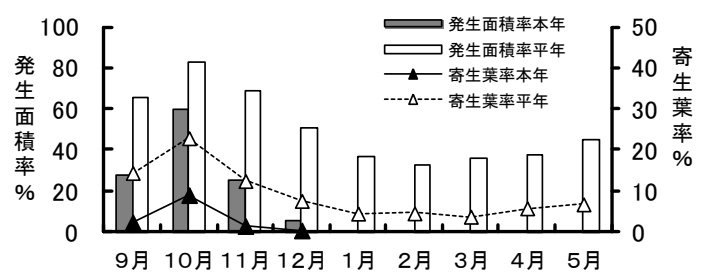
タバコナジラミ 発生量:平年並



ナス(促成栽培)におけるタバコナジラミの発生推移

県中央部で発生面積が多く、県全体では平年並の発生です。現在は成虫がわずかに見える程の発生ですが、増殖が早いので、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除により密度上昇に気をつけてください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量:少



ナス(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

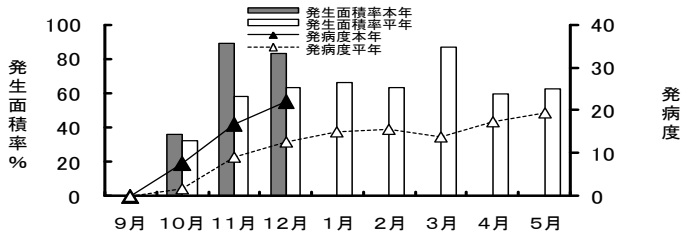
県全域で発生が少ない状態です。今後も、急激な密度の増加はないと思いますが、発生をよく観察し初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

平成26年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

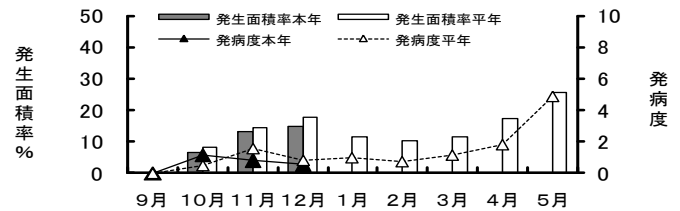
うどんこ病 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

県下各地とも平年並からやや多発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温は平年並からやや低く、日照量はやや多いと予想されています。今後も現在の発生状況が続くと予想され、蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。

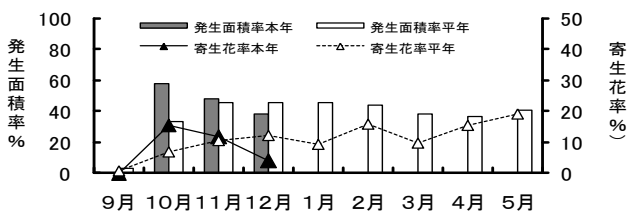
黒枯病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

東部では多発傾向ですが、全体的には平年並の発生となっています。蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないように丁寧に散布してください。

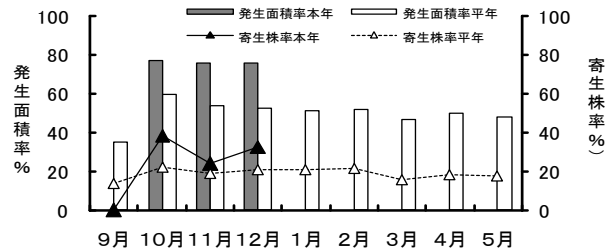
ミナキイロアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナキイロアザミウマの発生推移

東部ではやや多発生となっていますが、全体的に平年並の発生で推移しています。今後も現在の状況で推移すると思います。初期防除を徹底するとともに、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。なお、天敵導入の場合は天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

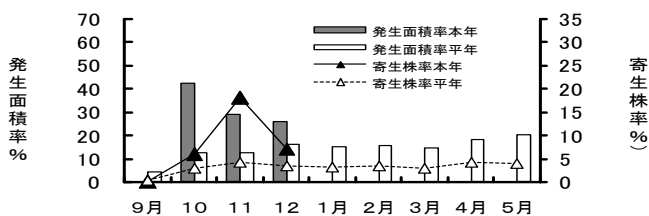
タバコナジラミ 発生量: 平年並み



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバコナジラミの発生推移

全体的にやや多発生の傾向ですが、ほとんどが成虫の発生が見られる程度です。スワルスキーカブリダニがほとんどのほ場で導入され、定着が進んでいます。スワルスキーの定着の悪い場合には、初期防除に努めてください。防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

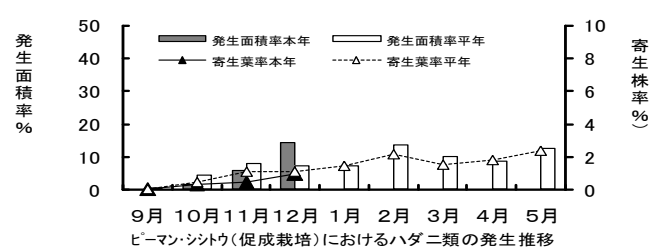
アブラムシ類 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

県中央部で多く、全体的にもやや多発傾向にあります。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、ヒゲナガアブラムシ類の発生に注意しましょう。薬剤散布の場合は天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

ハダニ類 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

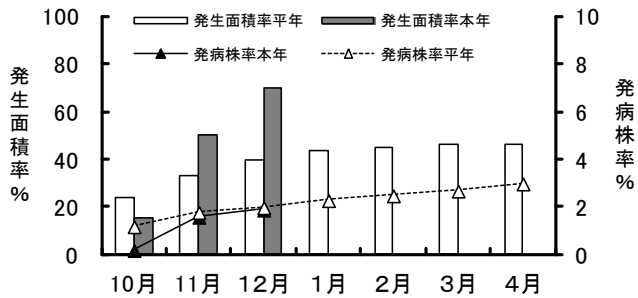
県東部から中央部で発生が多くなっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

平成26年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月) 野菜類ダイジェスト版

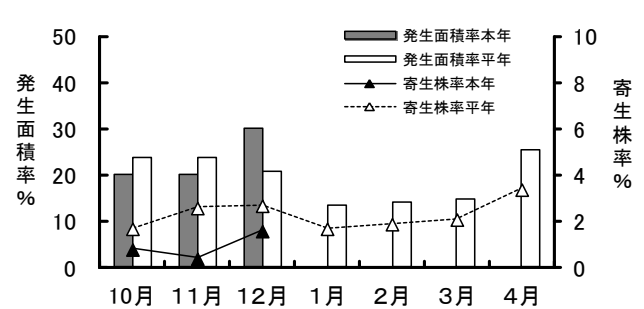
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: やや多



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

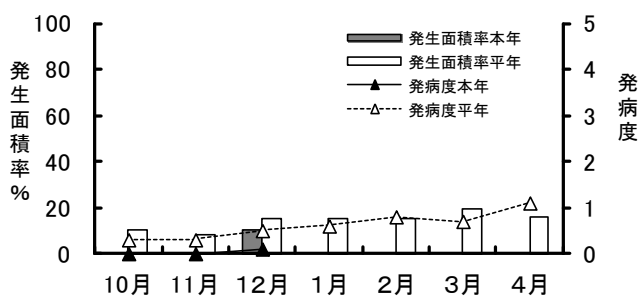
タバココナジラミ 発生量: やや多



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

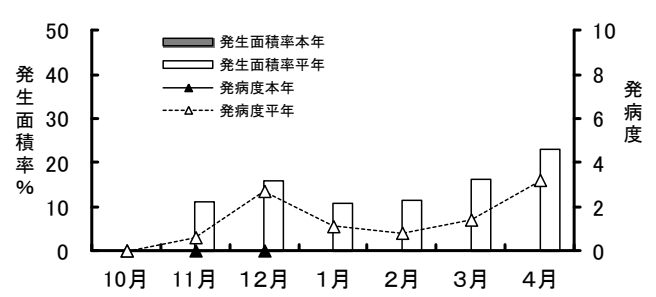
黄化葉巻病の発生面積はやや多、発病株率は平年並に推移しています。媒介虫であるタバココナジラミもやや多発生で推移しています。今後も媒介虫の発生に注意し、必要に応じて薬剤散布を行いましょう。

すすかび病 発生量: やや少



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

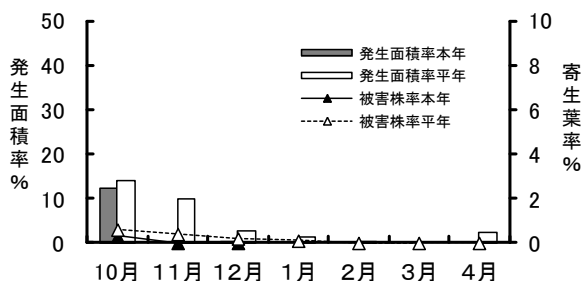
葉かび病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における葉かび病の発生推移

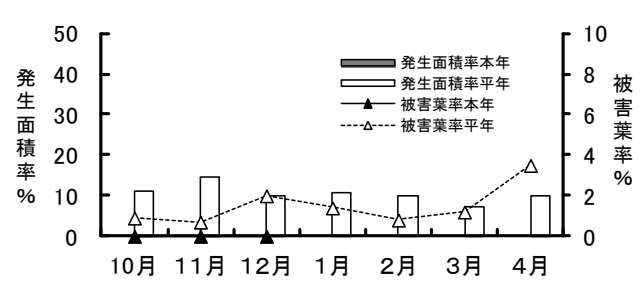
すすかび病はやや少、灰色かび病および葉かび病は平年より少発生となっています。これらの病害は多湿条件が多発の要因となることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。

ハスモンヨトウ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるハスモンヨトウの発生推移

ハモグリバエ類 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるハモグリバエ類の発生推移

ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類は防虫ネットの普及により施設内への飛び込みが少なくなっています。しかし、12月の巡回調査では、いくつかのほ場で発生がみられましたので、今後の発生に注意して下さい。